

1	福	島	県	に	お	け	る	特	定	健	診	結	果	と		
2																
3																
4	○	桐	生	理	江		小	原	俊	子		菅	野	千	恵	美
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																

21 県北、県南、会津、相双、いわきの5地区に
 22 分け、年齢階級、肥満、血圧、耐糖能、脂質
 23 異常症、喫煙指数（BI：ブリンクマン指数）、
 24 メタボリックシンドローム（メタボ）判定に
 25 ついて、当協会で使用している判定基準に基
 26 づき集計した。
 27 【結果】
 28 震災を受けた平成23年度の特定健診受診者
 29 数は県北、相双両地区で大きく減少したが、
 30 平成26年度には震災前の水準まで回復した。
 31 年齢階級別では全体の半数を60歳代が占めて
 32 おり、40歳代、50歳代は年々減少傾向にあっ
 33 た。平成23年度以降の肥満、血圧、耐糖能、
 34 脂質異常症、喫煙指数、メタボ判定について
 35 平成22年度以前と比較すると、肥満要指導率
 36 は相双地区での増加が著明であり、特に50歳
 37 代男性は5%以上増加していた。血圧は加療
 38 通院中が増加し、相双地区は他の地区に比べ
 39 男女とも増加の割合が大きかった。耐糖能は、
 40 全地区において、要指導率、要精検率ともに

41 増加していた。脂質異常症要精検率は、相双
42 地区の50歳代男性で4～5%増加していた。
43 喫煙指数では、全地区でBI 0～199からBI 200～399
44 へと増加していた。メタボ判定の基準該当率
45 は、県北地区と相双地区の両地区で増加して
46 おり、特に相双地区の60歳代男性は震災以前
47 の23%～25%から、平成26年度には34.8%とな
48 り増加が著明であった。
49 【まとめ】
50 県内5地区の結果を経年的に集計した結果、
51 相双地区では、肥満の要指導率とメタボ判定
52 の基準該当率が他の地区より増加していた。
53 その一因として相双地区の12市町村中9市町
54 村が原発事故による避難地域になっているこ
55 とから、震災後、生活環境の著しい変化の為、
56 多くのストレスを抱えていることが考えられ
57 た。また、23年度以降、全ての地区での耐糖
58 能の要指導率と喫煙指数は増加していた。こ
59 れは相双地区だけに限らず、県全体の生活習
60 慣の悪化であることを伺わせた。

